

長崎市障害者自立支援協議会 地域生活支援部会

■地域生活支援部会 令和4年度 活動報告

日 時	内 容
令和4年4月15日 対面 10名 リモート 6名	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和4年度の地域生活支援部会について ② 令和3年度居住サポート件数報告 ③ 事例検討 ④ その他
令和4年5月13日 対面 10名 リモート 2名	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の運営に関する事務連絡 ② 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて ③ 役割分担 ④ 事例検討 ⑤ その他
令和4年6月10日 対面 12名 リモート 2名	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度の計画、役割分担の確認 ② 長崎市障害者自立支援協議会地域生活支援部会規程（案） ③ 医療機関との意見交換会アンケート（案） ④ 係別の協議 ⑤ 事例検討 ⑥ その他
令和4年7月8日 対面 9名 リモート 4名	<ul style="list-style-type: none"> ① 長崎市障害者自立支援協議会地域生活支援部会規程 ② 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて ③ 医療機関との意見交換会について ④ 事例検討 ⑤ その他
令和4年8月19日 対面 15名 リモート 4名	<p>医療関係者との意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ① あいさつ ② 地域移行・定着支援、にも包括について事業説明 ③ 事例紹介（三和中央病院・田川療養） ④ 各医療機関より ⑤ グループワーク
令和4年9月30日 対面 19名 リモート なし	<ul style="list-style-type: none"> ① ピアサポーターとの関わりについて 精神障害者ピアサポーター養成講座の受講者による講話 のぞみ共同作業所 河野知房 所長 当事者3名 ② その他
令和4年10月14日 対面 13名 リモート 1名	<ul style="list-style-type: none"> ① ピアサポーターとの関わり振り返り ② 医療関係者との意見交換会振り返り・計画 ③ 第2回医療機関との意見交換会（案）の検討 ④ その他

日 時	内 容
令和4年11月14日 対面 11名（部会員） 全体参加者 98名	令和4年度 社会参加促進事業保健所等担担当者研修会へ参加 ① あいさつ（長崎こども・女性・障害者支援センター所長 加来洋一 様） ② 行政説明「国の動向と長崎県における取り組みの方向性」 長崎県 障害福祉課 精神保健福祉班 ③ 講義 「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みにつて」～他県での取り組みについて～ 講師 鹿児島県 障害福祉課 精神保健福祉対策監 川崎誉代 様 講師 大分県障害福祉課 精神保健福祉班 技師 古河美由紀 様 ④ グループワーク（各圏域における課題等への情報交換） ・地域移行・定着支援の仕組みづくりについて ・ピアサポーターの活用、養成・雇用促進について ⑤ 閉会
令和4年12月9日 対面 14名 リモート 4名	① 社会参加促進事業保健所等担担当者研修会振り返り ② 4市地域移行・地域定着部会合同情報交換会について ③ 第2回医療機関との意見交換会（案）の検討 ④ 事例検討 ⑤ その他
令和5年1月27日 対面 28名 リモート 5名	第2回医療関係者との意見交換会 ① あいさつ ② 第1回医療機関との意見交換会の報告 ③ ピアサポートちゃんぽんの紹介 ④ グループワーク 自己紹介、社会資源の共有、地域生活の現状と課題 精神障害者にも対応した地域包括の構築に向けて、実践できること ⑤ 閉会
令和5年2月16日 対面 9名、 他3市部会員 リモート 5名 他3市部会員	4市地域移行・地域定着部会合同情報交換会（長崎市・大村市・西海市・諫早市） ① にも包括に向けての取り組み状況 ② 地域移行・地域定着の取り組み状況 ③ 部会の予算 ④ 各部会からの事前質問事項への回答 ⑤ その他意見交換

■課題等

- ・「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の分野は多岐に渡っており、当部会のみで解決できるものではない。協議の場の1つとして位置付けは可能。長崎県の指標と実情のすり合わせは必要。
→①推進体制、②医療、③障害福祉・介護、④保険・予防、⑤住まい、⑥住民参画の6つの領域に分かれており、市町・保健所・医療機関・県で取り組む指標を確認する。当事者が地域生活を営む上では、地域の方々の協力や理解が必要。自治会、訪看、生活福祉課、教育関係者等々の意見をj知ることjで地域の課題を抽出して協議していくことが必要。
- ・地域移行支援においては、病院との連携が不可欠であるが当部会に参加院が少ない。今年度は2回医療機関の方との情報交換会を実施。定期的な部会にも参加してもらえるように呼び掛け参加をjしてもらjう。また、病院内だけでは、地域移行が進みにくかったり、役職間で地域移行に対する認識の違があったりする様子。行政の介入や、研修会参加等で地域移行に取り組みやjくなる場合もある様子。
- ・地域移行はコロナ禍により利用が激減している。支援が中断することで、患者の退院意欲が低下することが見られる。
→ちゃんぽん会のようなピアサポーターからの講話をjすることjで退院意欲の促進にならないか検討する。
- ・ピアサポーターや当事者に対するフォローアップが課題となった。ピアサポーター養成講座の受講終了後の活動の場が作れていない現状や、部会に参加して頂く時の配慮も必要ということもあった。支援者とピアサポーターとの関わり方についても学ぶ必要があると思われる
- ・他市の地域移行・定着支援の情報を共有していく。県や制度改正の動向を確認するために、部会で研修会に参加することも有効的であると思われる。
- ・今年度は、事例を検討する機会が少なかった。現在の事例を検討することで、地域での課題等が浮き彫りになってくると思うので、次年度は重点的に取り組む予定。
- ・今年度は部会の規程を整備した。部会役員（会長・副会長・補佐）の任期を1年とし、長期的任期がないようにする。1人3年間役員に関わるという形になる。副会長は毎年部会員から選出する。（1年ごとに役割が代わる：副部長→会長→補佐）